

中野勝清

## 使者の訪れ

深紅の花びら、薄紅の花びら、純白の花びら  
鮮やかな梅の花々に誘われ、一步外へ出る  
春の足音がひたひたと迫ってくる  
こころもからだも世間から取り残され  
焦燥感と化して煙るばかり  
幼い女の子がおぼつかない足どりで  
おかあさんに右手を引かれ  
よちよちとこちらへ歩いてくる  
足早にすれ違おうとするも  
毛糸の帽子にうずもれた小さな顔に  
まばゆい光がさしこみ、目を奪われる  
顔をくしゃくしゃにして、懸命に左手を振ってくれる  
(バイバイなのか、それとも、いつてらっしゃいなのか)  
透明な無垢なるまなざしに  
自然と笑みがこぼれる  
雨がやみ、春の気配が一層濃くなる  
午後のひととき